

射水市名誉市民

よし だ み の る
吉田 實

Yoshida Minoru

生年月日～没年月日

明治43年3月19日 生
～ 昭和57年11月16日 没

決定年月日

昭和56年6月26日議決

主な経歴

大島村長
富山県知事
衆議院議員
参議院議員



功績

吉田實は、射水郡大島村小林(現射水市)に生まれた政治家です。

東京帝国大学(現東京大学)経済学部を卒業後、県立福野農学校の教諭となりますが、大陸への思いが強く昭和14年に朝鮮とモンゴル間の貿易会社へ入社します。軍隊生活を経て昭和21年に帰還、昭和22年には、37歳の若さにして公選初代の大島村長に当選し、3期9年にわたり村長を務めました。この間、村の広報誌に、食料自給論や世界経済における日本の農業といった巨視的な思考を寄せるなど、吉田はその卓越した農政論によって村の農協長から全国農協連合会長へと押し上げられていきます。

昭和31年、歴代続いた官僚出身の知事に対抗して知事選挙に出馬、農業団体の支援を背に大差で当選します。46歳にして富山県初の民間出身知事となった吉田は、「野に山に海に」のスローガンのもと、豊作を続けるための有畜農業の発達という「野」の夢、立山黒部の総合開発という「山」の夢、富山新港の建設という「海」の夢を政策の柱として、果敢に大事業に取り組みました。昭和43年には富山新港が開港、新港工業地帯で働く人々の住宅地として太閤山ニュータウンを造成、立山黒部アルペンルートの開発に着手するなど数々の事業を成し遂げた後、昭和44年には知事を辞任して国政の舞台に立ちます。衆参両院にわたる10年余りの議員活動の中で、自民党農林水産局長、参議院副幹事長などの要職を歴任するなど、国政においても大きな足跡を残しました。

「爾俸爾禄 民膏民脂 下民易虐 上天難欺」(*)生涯を故郷そして国の発展のために捧げた吉田實の政治姿勢を表した言葉です。

※ 爾の俸、爾の禄は 民の膏 民の脂なり 下民虐易くも 上天欺き難し

「公務員の給料は、住民の汗と脂の結晶ともいべき血税である。住民は虐げやすいが、天を欺くことはできない。」の意。中国の後蜀の皇帝である孟昶の「戒諭辞」の一説。吉田實が県知事るとき、富山県庁前庭に建てられた戒石碑から。

※ 関連施設 吉田實銅像 吉田實の遺徳を永く後世に伝えるため、昭和61年、吉田實顕彰会が建立。大島コミュニティセンター前に所在。

(『吉田實とその時代』(吉田實顕彰会)『大島町開町115周年記念誌』(大島町)、『富山大百科事典』(北日本新聞社) から引用)